

東海学生 駅伝大会

出雲への切符を手中に! 完全優勝で6連覇



全日本大学駅伝での悔しさを乗り越え、全力で走り切った部員たち

武豊緑地を起点に半田運動公園陸上競技場まで知多半島を一周する7区間63.5キロを走る第84回東海学生駅伝が令和4年12月11日に開催され、本学駅伝競走部(Aチーム)が2位に1分20秒差をつける3時間17分02秒で6連覇を達成した。

全員区間賞を獲得し、矜持を見せた4年生

優勝すれば出雲駅伝2023への出場内定が決まる第84回東海学生駅伝対校選手権大会において本学駅伝競走部(Aチーム)が3時間17分02秒でゴールし、6連覇を達成。全7区を一度も首位を譲ることなく独走し、完全優勝を果たした。



Aチーム

Bチーム

Cチーム

第84回 東海学生駅伝対校選手権

区間/距離	中継点	Aチーム	区間賞
1区 8.5km	武豊緑地→河和口平野歯科前	柴田龍一(現日4) 三重/三重	25分54秒 通過1位
2区 10.6km	河和口平野歯科前→鷺が崎北バス停	岩島昇汰(国史2) 岐阜/益田清風	32分11秒 区間2位 通過1位
3区 8.1km	鷺が崎北バス停→魚ひろば	曾越大成(教育2) 三重/木本	25分02秒 区間2位 通過1位
4区 8.3km	魚ひろば→名鉄内海駐車場	宮本康希(教育4) 三重/宇治山田商業	26分07秒 区間賞 通過1位
5区 10.3km	名鉄内海駐車場→上野間小学校	畠山大輔(国史2) 愛知/豊川工業	32分44秒 区間2位 通過1位
6区 5.4km	上野間小学校→高砂山公園前	花井秀輔(現日4) 愛知/豊川	16分42秒 区間賞・区間タイ 通過1位
7区 12.3km	高砂山公園前→半田陸上競技場	中川雄斗(コミ2) 三重/伊賀白鳳	38分22秒 区間2位 通過1位

2区の岩島昇汰選手(国史2)、3区の曾越大成選手(教育2)が首位を維持したまま4区の宮本康希選手(教育4)へ。宮本選手が区

総合成績

1位	皇學館大学 A	3:17:02
2位	名古屋大学	3:18:22
3位	愛知工業大学 A	3:18:33
4位	岐阜協立大学 A	3:21:49
OP	皇學館大学 B	3:23:02
5位	中京大学	3:23:30
OP	皇學館大学 C	3:25:10
6位	三重大学	3:28:31
7位	愛知教育大学	3:30:21
OP	岐阜協立大学 B	3:30:21
8位	中部大学	3:30:51
OP	愛知工業大学 B	3:32:28
9位	静岡大学	3:32:54

間賞の走りで差を広げると、その流れを継いで5区畠山大輔選手(国史2)、6区花井秀輔選手(現日4)、最終区の中川雄斗選手(コミ2)まで、一度もトップを譲ることなく完全優勝を果たした。4年生は全員区間賞と有終の美を飾り、またオープン参加のBチームは5位相当の3時間23分02秒、Cチームは7位相当の3時間25分10秒と選手層の厚さを示した大会にもなった。

柔道衣のロゴ文字を一新! 次なるステージへ

「次の10年をさらなる飛躍の10年に」——大学柔道部長・佐藤武尊准教授の熱い思いを受け、国文学科の上小倉一志教授が柔道衣のロゴ文字を新たに揮毫した。



左から上小倉教授、堀内さん、南さん、佐藤部長

4面「書」を特集しています。

全日本大学駅伝での悔しさをバネに

大会翌日に開かれた学内報告会で「例年になく他大学がレベルアップし、本学が優勝候補の筆頭ではないとまで囁かれていた」と話した日比勝俊監督。体調面での不安やプレッシャーを感じながら臨んだ大会でもあったことから、首位独走というこれまでの完全優勝に「本当によかった」と安堵の気持ちを吐露した。

皇學館 学園報

第94号
令和5年2月



注目記事

- 2面 令和5年 学長年頭講話 「温故知新と稽古照今」
- 3面 地域連携 カトリック系 海星高校と協定締結
- 4面 カルチャー&スポーツ 新春特別企画「書」

- 5面 就職内定者ボイス
- 6面 中高トピックス 中高一貫修学旅行を実施 ほか
- 7面 皇學館高校・中学校 卒業生随想
- 8面 アクティブスチューデント 留学生 楊清華さんが「いせ国際交流日本語スピーチ大会」で審査員賞受賞 ほか

シリーズ

- 2面 皇學館人物列伝③ 重松信弘

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)



年末に書道部の展示を見に出かけた。いずれも力作ぞろい、学生諸君の別の顔を見たような作品もあった▼指導者である歴代の書道部長は、曾野紫山先生、田畑昭典先生、大池青岑先生、上小倉積山先生という錚々たる顔ぶれで、いずれも漢字が専門だ▼文字といえば、最近の学生諸君の書く文字を見て、漢字三要素の一つである「形」というものを的確に把握しようとする気持ちが薄らいでいるのではないかと感じることがある▼平成22年のいわゆる(改訂)常用漢字表が告示された時に、文字数を増やす理由として、手書きの重要性は謳いながらも、読めればよい、という基準が示されたことと無関係ではないだろう。その背景には、情報機器の発達により、変換した文字の判別さえできればよい、という背景がある▼そもそも情報機器に搭載されている印刷文字の字形は、日本工業規格(JIS)が鵜を鵜としたり、冒瀆を冒洗、充填を充填としたりして、新しい形を作ってしまった▼上手か下手かではなく、とにかく書くという一画を丁寧に書くという心を学生諸君には心がけてもらいたいものだ。

令和5年学長年頭講話

「温故知新と稽古照今」

1月12日、恒例の学長年頭講話が記念講堂にて開催された。演題は「温故知新と稽古照今」。河野訓学長は本学が伝統的に大切にしてきたこれらの言葉の典拠や解釈を丁寧に説き、学生への激励のメッセージとした。

「温故」には「前に学んだことを復習する」の意も

講話の冒頭、河野訓学長は本学の大学案内やホームページで使われている言葉（温故知新）を取り上げた。「一般には『昔のことを研究して、そこから新たに道理や知識を発見すること』、あるいは、『古典や伝統など古いものの中に新しい価値や意義を見出そうとする』と」とされています。しかし、大元の『論語』や『礼記』で「温故」は「先に学んで知ったことを復習する」という意味で用いられています。

「温」には「尋ねる」だけでなく、「あたためる」「復習」との解釈があることを重ねて説明された。〈稽古照今〉については出典である古事記の序文「古に稽へて風猷を既に頹れたるに纏し、今に照して典教を絶えむとするに補はず」と

いふこと莫し」を解説。本学の旧講堂（六角講堂・昭和41年焼失）の正面に賀陽宮邦憲王御染筆の扁額〈稽古照今〉が掲げられていたエピソードに触れ、本学が伝統的に大切にしてきたこれらの言葉を丹念に紐解いた。

新しいものを学び続ける姿勢が大事

続いて、本学の建学の精神が簡明に述べられている賀陽宮邦憲王令旨と（温故知新）〈稽古照今〉を照らし合わせた上で、次の部分「夫レ業勤メザレバ精ナラズ、事習ハザレバ達セズ」に着目。「そもそも学業は真剣に取り組まなければ詳しく精通することはできないし、どんな事でも繰り返し学習し

なければ極みまで到達することはできない」と意味を説き、学んだことを何度も反復し体得することが〈知新〉の大前提になると語った。

さらに大事なことは前述の大庭先生の言葉に尽きるとし、「社会で先生が得た学びをそのまま生かせることはなく、応用することが

肝心。そのためにも4年間で学んだことを後に使える形で整理し、何に関しても対処できるように備えてほしい」と訴えた。そして、「目まぐるしく変わる現代に取り残されないために、常に新しいものを学び続けようという姿勢、信念が大切。本学での深い学びを根幹として新しいことを学び、イノベーションを引き起こせる日本人と

繰り返し「習う」ことが大切と話す河野学長



大杉光生名誉教授が逝去

本学名誉教授の大杉光生氏が令和4年9月19日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

防災備蓄食料を学生に配布

大規模災害に備え、本学では3日分の防災備蓄食料を学内各所に完備している。これら食料の入替えに伴い、防災への意識向上や備蓄食料の重要性を理解してもらおうと1月19・20日の2日間にわたって、アルファ米を学生に配布した。

配布会場となった倉庫会館1階には2日間で418名の学生が詰めかけ、防災備蓄食料を持ち帰った。岡田颯平さん（教育4）は、「4月から私立高校の体育教員として教壇に立つ予定。いただいたアルファ米を食べ、生徒たちへも災害への備えの重要性を伝えていきたい」と語った。



防災への意識を高めたいと語る岡田さん

第62期学友会が発足

第62期学友会が発足し、前期に続き河西一成さんが総務委員長に就任した。初めて学友会LINEを始めるとして広報に力を注いだ河西さん。「多くの学生に学友会総務部について知ってもらいたいと考え行動してきたが、反省する点もあり、総務委員長としてやり残したことがあるのではないかと再度立候補した理由を語る。2期目は学生と直接コミュニケーションを取り、総務部の活動が学生のためになっている「つもり」になっていないか意見交換をしていきたいと話す。

総務委員長 河西一成 (国史3)
総務副委員長 中村悠真 (国文3)

遠藤慶太教授が『仁明天皇』を刊行

本学国史学科の遠藤慶太教授が人物叢書『仁明天皇』(令和4年・吉川弘文館)を刊行した。

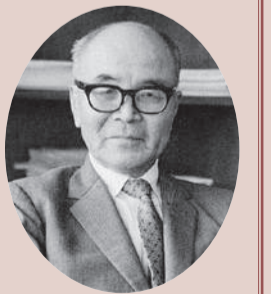
仁明天皇は第54代、平安前期の天皇である。幼少期より病弱であったことから、医薬に精通していたと伝わる。

仁明天皇の宮廷では、貴族社会を中心に、それまでに受け入れた外来の要素を踏まえ、のちの時代から仰がれる古典文化が形成された。本書は仁明天皇の41年の生涯をたどりつつ、花開く平安時代の社会・文化を展望している。

遠藤教授は「令和4年限定で、入稿したばかりの本の原稿を講義にあてました。36名の受講生たちの率直な反応や意外な質問は校正の弾みになりました。また、人物叢書は定評ある伝記のシリーズです。日本歴史学会の先生方や熟達の編集者の熱意に導いてもらいました。直木賞作家・澤田瞳子さんが朝日新聞の読書欄で本書を紹介くださったのも大きな褒美。本書をきっかけに人物叢書のシリーズに親しみ、歴史と人物との硬質な対話を楽しんでいただければ」と話す。



皇學館 33 人物列伝



重松信弘

しげまつ のぶひろ ●明治30年愛媛県生。昭和2年東北帝国大学法文学部卒業。宮城県女子専門学校教授、満洲国建国大学教授、愛媛大学教授などを経て、昭和41年皇學館大学教授。1887〜1983。

国学の意義を説く

昭和42年に皇學館大学大学院文学研究科が設置されるに当たり、国文学専攻の研究指導教授となつたのが重松信弘であった。当時、その名は、源氏物語の思想的研究の第一人者として知られていた。本学での在任期間は昭和41年度から昭和51年度までの11年間で、後半5年間は客員教授という立場にあった。この間の講義の内容を知ることができる著書に『近世国文学の研究』(昭和49年、風間書房)がある。序文に「総論編は国学における文学研究の発達を概観的に考察したもので、これは皇學館大学で数年講義したノートを整理したものである」と記している。そこで扱われたテーマは、中世歌文学とその崩壊、契沖と下河辺長流、荷田春満、賀茂真淵、本居宣長、幕末の大勢となっている。重松は「国文学」という呼び名こそ、「和学」や「国学」にはない自国の道であるという国家的自覚を伴っているのである。著書に『新攷源氏物語研究史』『源氏物語の構想と鑑賞』『源氏物語の仏教思想』『紫式部と源氏物語』などがある。国文学科教授 齋藤平

Regional Collaboration 地域連携

高大連携の輪、広がる カトリック系海星高校と協定締結

本学はカトリック系のエスコラピオス学園海星高等学校と相互の教育活動の活性化をめざし包括連携協定を締結した。今後は本学教員の出張講義や探究学習における支援、公開講座への生徒の受入れ、同校からの推薦枠拡大などが想定され、学外での高大連携の輪が広がる。



河野学長(左)と服部校長(右)。有用な人材育成に向け、宗教の枠を超え連携を図る

茶道エッセイで 西本真菜さん(国史4)が佳作



賞状を授与される西本さん

学校における茶道活動を通じて感じたことを自由に語る令和4年度「第43回学校茶道エッセイ」(一般社団法人茶道裏千家淡交会実施)で西本真菜さん(国史4)の作品「ひとひらの蝶」が「学生の部」で佳作に選ばれた。

作品は西本さんが茶道を通して“感性を磨く”という新たな視点を得た体験を綴ったもの。受賞の知らせを受け、西本さんは「寝耳に水で、大変驚いた」と話し、「エッセイを書く時、テーマには迷わなかった。『蝶は一頭ではなく、ひとひらと数える。氷が解けたら水ではなく、春になる』という話がとても印象に残っていた。中高で作法の体験をしたことはあったが、背景などの話を聞くのは浅沼博先生の授業が初めてだった」と語った。浅沼先生も「茶道の世界での感性を伝えたくて授業でした話。それをうまく捉えて、文章にしてくれてうれしい」と顔をほころばせる。

「1年生の時に参加したお田植祭で雨が降った際、先輩方が『めぐみの雨だね』と話しているのを聞いて感性の違いを感じた。その経験と浅沼先生の話から、ただの現象が見方によって豊かなものになっていくことを知った」と語る西本さん。こうした気付きの数々が点から線、線から面となり、感性を養う糧となるはずだ。

CLL活動発の商品が 伊勢市ふるさと納税返礼品に



CLL活動「Gift of Iseプロデュースプロジェクト」では、令和4年春から「皇學館大学生がおすすめしたい伊勢の一品」をコンセプトにギフトについて検討を重ねてきた。この度、その第1弾として本学の地域社会研究会が地元茶園と共同開発した「宇治山田の和紅茶」と和洋菓子を詰め合わせた「伊勢の和みティータイム」を伊勢商工会議所協力のもと発売。伊勢市のふるさと納税返礼品(寄付金額10,000円)にラインナップされた。商品選定からパッケージデザイン、チラシ作成まで、半年かけて作り上げてきた学生たち。メンバーは「五感で伊勢らしさを感じてほしい」と話す。本商品はふるさと納税返礼品を扱う各サイト(「さとふる」)でのお取り扱いはありません)から申し込みが可能だ。



※学生が1カ月分の申し込みをまとめて毎月15日前後に発送いたします。お時間を頂戴しますこと、予めご了承ください。

八雲琴の響き、高らかに 祭式教室で奉納演奏



八雲琴の継承に尽力する浦野さん(前列右端)、中村さん(前列右から2人目)、赤堀さん(後列左から2人目)、水谷さん(後列左端)

令和5年2月4日、祭式教室において八雲琴の奉納演奏(学内発表会)が執り行われ、繊細な音色と清らかな歌声が響き渡った。八雲琴は文政3年(1820)に中山琴主によって創案され、原則、ご神前でのみ使用される二絃琴である。しかし、現在は家元制度が途絶えており、とくに神社神道における継承は廃絶の危機に瀕している。そうした現状を憂慮し、八雲琴の復興をめざすべく「八雲琴伝承の会」を

立ち上げたのが神明神社・海土潜女神社の禰宜である浦野亜子さん(本学専攻科平成25年3月修了生)だ。(左記コラム参照)浦野さんをはじめ神明神社の全面的な協力のもと、令和元年に皇學館おかげキャンパスプロジェクト「八雲琴」の継承を通じて地域神社の活性化プロジェクトが発足。神道学科の板井正斉教授は「魅力のひとつは神職がひとりでも奏樂できる点。奉職をめざす学生が修得すること、神職の少ない地域神社の

活性化に繋がる」と期待を寄せると、令和3年以降は神道学会の八雲琴研究部会の活動として引き継がれ、今年度は学生15名男子5名・女子10名が6月から月1回程度の稽古と自主練習を重ねてきた。令和5年2月4日、祭式教室において八雲琴の奉納演奏(学内発表会)が行われ、学生が日頃の練習の成果を披露した。赤堀寛弥さん(神道1)は「絃が2本しかないので一見簡単そうに見えるが、弾いてみると難しい」、水谷優心さん(神道1)は「演奏しながら厳かに歌うという2つのことを同時に行うのが難しかった」とそれぞれ感想を

話した。高校時代に箏曲部に所属していた中村瑠樹さん(神道4)は「二絃を同時に弾くやり方が普通のお琴と違い、左手を動かすことに苦労した。本来はひとりで弾く機会が多いと思うが、今日は皆さんと合わせ、同じ音色を奏でられて楽しかった」と語った。



集中して音を合わせる学生たち

コラム

八雲琴の継承を切に願う

神明神社・海土潜女神社(鳥羽市) 禰宜 浦野 亜子

八雲琴は神前でのみ奏樂が許される楽器です。楚々として控えめな佇まいながら、内に秘めた力強さを感じさせる二絃琴です。江戸後期、伊予国に生まれた中山琴主は、皇国の神々に手向ける調へは我が国発祥の楽器による清調であるべきとし、出雲大社に参籠して創案を祈りました。その時、感得した楽器が八雲琴です。「天の沼琴」の再興とされる所以です。八雲琴は主に幕末維新の国学思想とともに広がり、明治期には子女の教養としても普及し隆盛しましたが、その後は衰退し現在に至ります。私は奉職後に偶然、八雲琴と出会いましたが、神社神道の祭典として八雲琴が廃絶危機にあることを知り、復興・伝承活動を志しました。日々、神奉仕の中で八雲琴の奏樂をしておりますが、祭員を務めながら奏樂可能(「祭神・季節等により歌詞を替えて奏樂可能」といった八雲琴の特長を最大限に活かしてお

ります。祭典で生の奏が奏されることを氏子の皆様は大変喜んでくださいますし、お社や「祭神の由緒を歌にして手向けることは神道教化に繋がり、ご神威の発揚にも通じるはずですが、また、大神様に真心で向き合っているか、と自身の心を見つめ直す機会となり、神前に相応しい音色を追求する励みにもなっております。八雲琴研究部会の学生有志が、熱心にお稽古に取り組み姿勢はとも美しく、また、すでに八雲琴を学ばれた館友から神前奏樂の報告をいただく度、国の安寧と弥栄を祈る八雲琴の響きが、絶えることなく継承されてゆくことを切に願っております。

Culture & Sports カルチャー&スポーツ

特別展「榎原神宮の奉納刀」 設営に学生6名が参加



令和5年1月1日から榎原神宮宝物館で開催中の特別展「榎原神宮の奉納刀」の設営に、学芸員資格の取得を目指す6名の学生が参加した。この展示は榎原神宮史料調査委員を務める文学部国史学科の長谷川怜助教が企画したもので、創建以来130年以上にわたり榎原神宮に奉納されてきた刀剣の中から古代～幕末・近代に至る様々な時代の刀剣を選び、関連史料と共に展示している。いずれも榎原神宮への思いを込めて奉納されたものであり、奉納刀や奉納者と歴史的な出来事との関係についても詳しく解説している。

展示会場の設営やパネル作成、展示史料の陳列など、のべ4日間にわたった作業を柴田沙南さん(神道3)、筒井啓仁さん(国史3)、山本謙利さん(国史2)、奥野佑里さん・水谷彩さん・間柄詩織さん(国史1)が担当。山本さんは一部のパネル解説を執筆した。

一連の作業では刀剣類はもちろん、掛軸や巻子など様々な史料を扱う必要があったため、事前に長谷川助教から刀剣や美術品の取り扱い方について講習を受け臨んだ学生たち。参加した山本さんは「展示の方法や考え方など実践を通じて学ぶ貴重な経験になった」、奥野さんは「史料の配置を考えることは大変だったが、達成感があった」と感想を語った。

展示は3月5日(日)まで榎原神宮宝物館で開催中。詳細は榎原神宮ホームページをご確認ください。



皇學館中学生が 「0.ヘンリー物語 ～the last leaf～」を鑑賞



令和4年12月6日、皇學館大学記念講堂にて劇団芸優座による「0.ヘンリー物語～the last leaf～」が行われ、皇學館中学校の生徒が鑑賞した。これは、文化庁主催の「子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」の一環。新型コロナウイルス感染症の影響で文化芸術に触れる機会が失われているとして文化庁が実施した同事業に本校が応募し、採択された。

演劇は「心と手」「愛の使者」「賢者の贈り物」「最後の葉」の4作品によるオムニバス形式。緞帳が上がるや、素晴らしい舞台セットに驚きの声も漏れ、俳優の熱演を心から楽しむ様子が見られた。生徒からは「声量や感情表現の豊かさなどプロのすごさを感じた」「笑いあり涙ありの舞台で、初めての演劇鑑賞をととても楽しめた。また観劇したい」「前列だったので細かな表情や動きが観られてよかった」「音や光の効果を出す人、役者さんなど全員が丸となって作り上げた物語に感動した」といった声が聞かれた。

高校書道部が「書の甲子園」で東海地区団体優秀賞、個人は過去最多の9人が入選

「書の甲子園」といわれる第31回国際高校生選抜書展において皇學館高校書道部が団体で東海地区優秀賞、個人では過去最多の9点が入選した。

部長の石谷実佐さん(3年8組)は「受賞の知らせを聞いたときは驚きのあまり部員全員で顔を見合わせた」と語り、「朝夕指導してくださる先生方のおかげ。また一人ひとりの努力の積み重ねが導いた結果でもあり、集大成として挑んだ書展でこのような成果を残すことができ、高校生活で一番の思い出になった」と喜ぶ。

部員は16名と少人数のため、学年の壁を超えてコミュニケーションをとっていると話す石谷さん。休憩時は賑やかな教室も、筆を持つと一瞬で静まり返るそうで「書道で培った集中力、こだわりを持って」とことん取り組み姿勢は受験勉強にも生きる」と石谷さんは言う。

さらなる高みに向け、後輩たちには「書道が好きという気持ちと先生への感謝を忘れず、さまざまな書体挑戦してほしい」と話した。



- 入選
- 石谷実佐 3年8組
 - 河村幸芽 3年6組
 - 宮脇杏奈 3年1組
 - 田畑真央 2年8組
 - 大嶋舞香 2年8組
 - 引地美羽 2年8組
 - 常山佳那 2年6組
 - 小林柚梨彩 1年9組
 - 二ノ宮 菜奈 1年8組

新春特別企画 書

大学・高校書道部の活躍が目覚ましい。今号では新春特別企画として「書」にスポットライトを当て、その魅力に迫ります。紙面中央の書「兔」は今年の十二支にちなみ上小倉教授に揮毫していただきました。

上小倉教授に聞く 書の魅力

上小倉先生が思う書の魅力とは？

書は「瞬間」の芸術です。一つとして同じ作品にはならない。それが魅力ではないでしょうか。紙に筆が触れる一瞬にすべてを投入し爆発させるには蓄積が必要ですが、たくさん書けば上手くなるかというところではありません。むしろ最初の欲のない状態で書いた方が技術や感性が



調和したいものが出てくる。ただ、何枚も練習したことは次に生きますからね。

書道部の抱負をお聞かせください。書道部に限ったことではなく、書の団体、グループというのは大抵同じ顔をしています。お師匠さんの作風に似てしまうんですね。その点、うちの書道部は私が手本を書かない

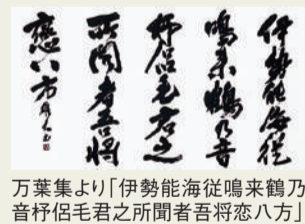
のでその子の個性が生まれます。

すると、小掠君のように学生でありながら個展を開こうという意欲のある学生が出てくる。今やInstagramやYouTubeで自分の書をアピールできる時代です。芸術作品として売ることまで視野に入れて、貪欲に表現力を磨いていってほしいです。

読者の方にメッセージを一言お願いします。

書はいつ始めてもいいんです。部には初心者もたくさんいますし、私自身、大学に入ってから書の道に入りました。何年やっていたなんてことは関係なく、どれだけ一生懸命向き合うかが大事なんです。しかし一つだけ、感性を養うことを忘れてはいけません。学生には、大学に来たら何かやりなさいよと言いたいですが、勉強するのは当たり前ですが、人としての幅を広げるためにも、趣味でも何でもいいからいろいろなことに興味を持って、自分の世界を広げていってほしいです。

小掠雄大さん(国文4)が初の個展



万葉集より「伊勢能海從鳴来鶴乃音杼侶毛君之所聞者吾將恋八方」

25点に賛助出品の9点を加えた計

大学書道部元委員長の小掠雄大さん(国文4)が4年間で培った書道の知識・技術の集大成として「皇學館大学卒業記念制作小掠雄大書展」を開催する。

読売書法展や中日書道展で数々の入選・受賞を果たしてきた小掠さん。書を「一期一会の芸術」と表現し、紙面一枚一枚に全身全霊を捧げ作品を仕上げている文章を読んでもまいがちですが、白黒のバランスや太さ細さ、墨の色など線自体の魅力を感じていただければ」と個展の楽しみ方を語る小掠さん。卒業後も書と関わり続け、書を通して指導やイベントを企画していきたいと話した。



「4年間の集大成を展示したい」と小掠さん

34点を展示する予定だ。「書かれています文章を読んでしまいがちですが、白黒のバランスや太さ細さ、墨の色など線自体の魅力を感じていただければ」と個展の楽しみ方を語る小掠さん。卒業後も書と関わり続け、書を通して指導やイベントを企画していきたいと話した。

入場無料

会期 ● 2月23日(木)～26日(日)

午前10時～午後5時

場所 ● シンフォニアテクトロジーホール伊勢2階展示室

上小倉教授の日展入選作品が巡回展でダブル受賞!

令和4年度の第9回日展・第5科「書」部門で入選した上小倉教授の作品「李白詩」が巡回展である日展名古屋展(1/25～2/12)で「CBC賞」「名古屋市長賞」をダブル受賞した。CBC賞は第1～5科の各部門より1名、今年度新設された名古屋市長賞は第1～5科から1名のみ贈られる栄誉ある賞だ。上小倉教授は「身に余る栄誉です。賞に恥じないように作品づくりに励んでいきます」と喜びを語った。

大学書道部が「潜志展」を開催



令和4年12月9日から12日にかけて、本学書道部が作品展「潜志展」(後援：伊勢市伊勢市教育委員会・伊勢新聞社)をシンフォニアテクトロジーホール伊勢にて開催した。今回は1～4年の部員22名の力作67点に顧問の上小倉教授の賛助出品作、「潜志展」と名付けていただいた中京大学の樽本樹郎名誉教授の特別出品作を加えた計71点が出品された。

令和4年12月9日から12日にかけて、本学書道部が作品展「潜志展」(後援：伊勢市伊勢市教育委員会・伊勢新聞社)をシンフォニアテクトロジーホール伊勢にて開催した。今回は1～4年の部員22名の力作67点に顧問の上小倉教授の賛助出品作、「潜志展」と名付けていただいた中京大学の樽本樹郎名誉教授の特別出品作を加えた計71点が出品された。

内定者ボイス

就職、公務員の内定を獲得した先輩たちの声を紹介します。

①志望理由 ②苦労したこと ③成功の秘訣 工夫 ④先輩へのアドバイス

教職編

辻 希乃華(国文)

【内定先】中学校 国語 (三重県)



① 中学2年の頃、人間関係の悩みを担任の先生に相談したら親身に話を聞いてくれた。そのような先生に憧れ、自分もなりたいと思った。② 勉強し続けることに不安を覚え、気分が落ち込むことがあった。③ 倉志会やつばさ、ガイダンスに参加し情報を集めた。同じ志を持った仲間と切磋琢磨しながら乗り切った。隙間時間の有効活用。④ 志を一に

する仲間を見つけるとよい。チャレンジしたいと思っただけは積極的に取り組むと面接に役立つ。私はFM三重の学生。パーソナリティに参加したことで伝わる話し方やアドリブ力が身に付いた。論文対策は早めにやっておくとよい。

岡野 匠(国史)

【内定先】中学校 社会 (三重県)



① 中学校の社会科教師だった祖父の姿を見た。② 大学の課題と教員採用試験の勉強の両立。模試や過去問で思うような結果が出なかったこと。③ 早くに計画を立てて専門教科を中心に勉強し、自分の課題を見つけて克服するように努めた。就職アドバイザーの先生に論文や面接の改善点を具体的に教えていただき、何度も練習した結果、自信に繋がった。④ 正しい方向で十分な勉強をすることが大事。大学は先生や仲間にも恵まれ、情報もたくさんあり環境は整っている。あとは自分がどれだけ本気で向き合えるかが大事だと思う。

① 中学校の社会科教師だった祖父の姿を見た。② 大学の課題と教員採用試験の勉強の両立。模試や過去問で思うような結果が出なかったこと。③ 早くに計画を立てて専門教科を中心に勉強し、自分の課題を見つけて克服するように努めた。就職アドバイザーの先生に論文や面接の改善点を具体的に教えていただき、何度も練習した結果、自信に繋がった。④ 正しい方向で十分な勉強をすることが大事。大学は先生や仲間にも恵まれ、情報もたくさんあり環境は整っている。あとは自分がどれだけ本気で向き合えるかが大事だと思う。

近く、こんなに手厚くサポートしてくれる大学はほかにないと思う。安心して頼って。

岡野 怜実(国文)

【内定先】小学校 (三重県)



① 中学校の部活の先生の厳しくも愛ある適切な指導のおかげで自分を磨くことができた。先生の教え方に憧れ教師をめざした。② つばさに参加した当初は他学科の学生ばかりで話しかけることができなかつた。③ 自分から行動することで仲間が増え、一人で悩みを抱え込まなくなつた。問題集はこれと決めた一冊を徹底的に繰り返し、やり終えたページに丸を付けるなど達成度を視覚化してやる気を維持した。マツト運動が苦手だったので2年生から練習に参加した。こうしたサポートがたくさんあるので本当に心強かつた。④ 小学校は英語教育に力を入れているため英検やTOEICなどの資格を取っておくとよい。ボランティアやアルバイトも教育に関するものに参加することで子どもへの接し方など経験値が増える。



公務員編

上村 道也(現日)

【内定先】三重県庁 (福祉技術職)



怒らない先生で、歴史好きな自分をよく理解し話を聞いてくれた。そんな先生に憧れたため。② 他県を受ける場合はどうしても情報が少ない。③ 現地の勉強会や説明会に参加して情報を集めた。1年生から電車通学の隙間に読書や勉強をしていた。基礎を固めていたため焦らず試験勉強に取り組めた。④ 迷ったときは勇気を出してやってみよう。だめなら次の方法を考えればよい。

なり試験で焦らなくなる。④ 1年生から公務員コンプリートプログラムを受講することで気持ちに余裕ができる。他の資格勉強がある場合は優先順位を決めることが大事。

③ 公務員志望の友人と一緒に勉強して気を引き締めた。就職担当にほぼ毎日通い、面接、集団討論を何度も練習した。④ 自己分析に取り掛かるのが遅かつた。上手く書けなくても早めに相談することで練り直すことができ。就職担当の方がレベルや進度に合わせて対応してくれるので、まずは足を運ぼう。

した経験がとて印象に残り、公務員をめざすきっかけになった。② 公務員試験が迫る中、中学校の教育実習に行ったため勉強時間がとれず大変かつた。③ 公務員試験対策講座の内容を繰り返し勉強した。問題集も1冊を何度も解いた。オンとオフのメリハリを付け、リフレッシュの時間を作った。④ 簡潔に話すことを意識したら会話が弾むようになった。いろいろな人や活動に出会えるので、C.L.L活動には参加した方がいい。コロナの影響でアクティビティが少なくなっているのは事実。何か話せるような出来事に参加するのが大事だと思う。

永尾 優菜(国文)

【内定先】津市役所



① 公務員コンプリートプログラムがあると知り入学を決めた。福祉職をめざしたのは先生に勧められて。② 一般企業に比べると公務員試験は遅いのでメンタルや体調を保つのが難しい。③ 公務員コンプリートプログラムは段階的に積み重ねる仕組みになってるので基礎力が身に付く。長くやっていると問題の傾向やペ

① 津市役所に勤める友人の話から市役所のイメージが変わり、自分も一緒に仕事がしたいと考えようになった。② 理数系科目が苦手で、また自治体によって試験内容が違うため対策が大変だった。学生、障害者の方と交流

村瀬 勇斗(国史)

【内定先】伊勢市役所



① C.L.L活動で行政や小

岡本 風布(教育)

【内定先】中学校 保健体育 (三重県)



① 中学の体育の先生の教え方が上手く、授業以外でも生徒をよく見て声を掛けてくれた。自分もそんな先生になりたいと思つた。② 実技試験対策。自分ひとりではわからない点が多く、ゼミの先生にアドバイスを求めた。③ 模擬授業を通していろいろな考え方に触れ視野が広がった。ゼミの先生部活動のメンバーに協力してもらい、あらゆる実技の種目を想定し練習をした。④ 先生との距離が

吉川 明里(教育)

【内定先】幼保(菟野町)



① 職業体験やボランティアで幼稚園に行った際、子どもと関わる楽しさや成長を間近で見られる保育士の仕事に魅力を感じた。② 幼保職の講座しか受講していなかったため情報があまり入ってこず、また自分の苦手部分の把握が遅れた。③ 就職支援担当の先生が細かく情報の相談にも親身になってくれた。④ 就職支援担当はもちろん、先生や友人など頼れるところがあれば頼る。

久保田 智大(教育)

【内定先】小学校(岐阜県)

① 小学5年の担任が全く

◆ 神社実習報告 ◆

行動に責任を持つ

奈良県・橿原神宮

神道学科3年 松井 晴基



実習を通して大きく2つの気づきがありました。ひとつは「受け身にならない」。

実習をただの奉仕と捉えず積極的に神職の方に質問することです。自分の行動次第で得られるものが全然違ってきました。次に「感情は伝染する」。忙しくなるにつれ私の顔から笑顔が消えていきました。しかし、常に明るく参拝者の方に接し、周りの方々に明るく話しかけると、周りの方々も明るく話しかけてくれるようになりました。私もこのようになりたいと感じました。実習中は参拝者の方に声をかけていただく機会も多く、いろいろな面で責任を持つて行動する大切さを学びました。言葉遣いやマナーといった最低限のことから意識し、常に元氣よく笑顔で対応できる神職になれるよう、残り少ない学生生活をより有意義に過ごしていきたいと思ひます。

きめ細やかな所作から美しく

愛知県・熱田神宮

神道学科3年 鏡味 知咲杜



熱田神宮での実習は3度目ということもあり、これまでより広い視野をもって状況把握し、落ち着いた対応ができたと感じます。

ご教授いただいた言葉で印象に残っているのは、「参拝者の方が気持ちよく新しい一年を迎えられるよう神職がお手伝いしていることを忘れてはいけません。」「白衣を著れば実習生でも神職に見える」です。神職のあるべき姿を改めて学ぶことができたので、きめ細やかな所作から美しくできるよう精進していきたいです。神職の役割とはそれぞれの神社の特色や日本文化を多くの人に広め、神道を身近に感じていただくことだと考えています。神様と人との仲を取り持ちながら、誰もが足を運びやすい、そんな場所を作り続ける存在になりたいです。

中高で修学旅行を実施

皇 學館中学校3年生が令和4年11月17日から19日にかけて京都へ、皇學館高校2年生が同年12月12日から14日にかけて関西方面(大阪・神戸)へそれぞれ修学旅行に赴いた。

以下に生徒の感想を掲載する。

いつまでも心に残る思い出に

高校2年7組 中村 光里

今回の修学旅行はクラス単位で行く人生で最後の旅行だったのでとても記憶に残るものとなりました。その一つが淡路島の地震の記念館に行ったことです。地学の授業で地震について学んでいたのより深く学ぶことができました。教科書に掲載されている写真とは違い、断層のずれの大きさを間近で見ることができたので改めて阪神・淡路大震災の恐ろしさを感じることができました。

もう一つはバスでの移動やホテルで過ごした時間です。私のクラスで

は何人かが集まってバスの中でいろいろなゲームをしました。バスの中の雰囲気が良くなり親睦を深めることができました。ホテルでも自由に移動できる時間に10人ほどの友人が同じ部屋に集まってその日あったことを話したりして楽しい時間を過ごすことができました。

いつもと同じ友だちといつもと違う時間を過ごし、いつも以上に楽しい3日間でした。この思い出はいつまでも大切なものとして心に残ると思います。



アトア水族館展望テラスにて



USJで記念撮影

団結力のすごさを感じた

中学校3年A組 西井 優菜

11月に2泊3日で京都へ修学旅行に行きました。京都の伝統的な建物や食事、文化などを感じることができ、とてもよい経験になりました。

私はこの修学旅行を通じて3年A組の団結力のすごさを感じました。バスの点呼や整列するときなど、全員で声を掛け合いながら行動している姿がとても印象的でした。特に2日目のB&Sプログラム(国際交流:外国人留学生とめぐる京都)では、観光地にたくさんの人がいて、はぐれそうになった時でも名前を呼び合い、班のメンバー全員で最後まで行動で

きたことがとてもよかったです。

今回の修学旅行でたくさんのことを学べました。また一段と仲良くなり、団結力が深まった3年A組で、これからの残り少ない行事も楽しんでいきたいです。そして、コロナ禍の中でも私たちが充実した修学旅行を過ごせたのは、裏で計画を練って進めてくれていた先生方、そしてスタッフの方々のおかげです。一生忘れられない大切な思い出を作らせていただき、感謝でいっぱいです。ありがとうございました!!



上/森陶器館での手びねり体験
右/B&Sプログラムでの京都散策



八坂神社にて正式参拝

全学年で人権学習を実施

12月9日の1限目、全学年で人権学習を実施した。1年生は「SNSと人権」をテーマに、どのような行為がSNS上のトラブル要因になり得るかを確認し、相手を思いやる行動ができるように、事例を参考に学んだ。2年生は「多様性の価値を学び、互いを認め合う」と題し、異文化を理解するための視点を養うことができた。3年生は「今までの人権学習の振り返りと今後に向けて～想像力を働かせて～」とのテーマで3年間の人権学習を振り返り、「自分の言動に責任を持ち、相手の立場に立って想像力を持つこと」の大切さを確認した。3年間で振り返る貴重な機会になったと思う。教育相談部・人権教育担当 宮岸良次



初の文化系競技「かるた」を実施

令和4年度クラスマッチ

令和4年12月19日に2学期クラスマッチが開催された。運動系はバスケットボール、今回初めて実施された文化系はかるたを行い、いずれも白熱した戦いとなった。結果は右記の通り。



左/盛り上がったバスケットボール
右/初のかるた競技に挑む

バスケットボール		
高校体育館ステージ側(Aコート)		
優勝	3年3組	
準優勝	3年9組	
高校体育館卓球場側(Bコート)		
優勝	2年1組	
準優勝	1年4組	
中学校体育館(Cコート)		
優勝	2年5組	
準優勝	3年2組	
かるた		
優勝	3年10・11組	80枚
準優勝	2年9・10組	69枚
3位	1年6組	68枚

たくさんのサポートに感謝

1年10組 山中 美璃依

2学期のクラスマッチでは昨年度のアンケート結果を参考に運動系に加え、文化系の競技を取り入れ、バスケットボールとかるたを行いました。

文化系の競技を取り入れるのは初めての試みだったため、上手く運営できるのか少し不安でしたが、先生方や多くのボランティア生徒の人たちが積極的にお手伝いをしてくださったおかげでスムーズに運営を進めることができ

ました。無事に終わることができたのはたくさんのサポートがあったからです。本当に感謝しています。

また生徒の皆さんはそれぞれ自分のクラスのために競技に取り組み、選手を応援する姿は、一人ひとりが輝いて見えました。この素晴らしい団結力を生かし、3学期のクラスマッチも盛り上げていきたいです。

校友会本部役員に5名が信任

皇 學館中学校の代表を決める校友会選挙が令和4年12月6日に行われ、セミナーホールにて立会演説、その後各教室で投票が実施された。なお、今回の投票では伊勢市選挙管理委員会より実際の選挙で使用する投票箱をお借りした。

- 総務委員長
山下 輝之(2年A組)
「昨年に続き、今年も一生懸命頑張ります」
- 総務副委員長
米本 悠仁美(2年A組)
「1年間、精いっぱい頑張ります」
- 井田 海彦(2年A組)
「何事にも前向きに一生懸命取り組んでいきます」
- 書記
酒徳 菜々美(1年A組)
「先輩方を見習って頑張ります」
- 会計
太田 悠登(1年A組)
「1年間、何事も前向きに取り組んでいきます」



前列左から米本さん、山下さん、井田さん、後列左から太田さん、酒徳さん

卒業式及び学位記・修了証書授与式の日程

皇學館中学校
3月18日(土) 10:00～ 中学セミナーホール
皇學館高等学校
3月1日(水) 10:30～ 大学記念講堂
皇學館大学
3月20日(月)
神宮参拝 《中止》 ▶神宮遥拝
学位記授与式 11:00～12:00 記念講堂
教員免許状・階位証等交付 12:10～13:15 各教室
祝賀会 《中止》 ▶記念品配付
※保証人の皆様については大学内の教室において学位記授与式の様子を中継にてご覧いただけます。 文学部：231教室、教育学部：212・222教室、現代日本社会学部：431教室

皇學館学園報

電子媒体(PDF)への全面移行について

日頃より皇學館学園報をご愛読いただきありがとうございます。

学校法人皇學館では平成16年9月10日に皇學館学園報第1号を発行して以来、印刷物(紙媒体)を皆さまに届けてまいりました。またホームページ上に「学園報アーカイブ」として電子媒体(PDF)を掲載し(下記のコードからアクセスできます)、紙・電子、両媒体で閲覧できる環境を整えてまいりましたが、読者層の広がりや情報端末の多様化、資源節減の動きに伴い、第95号(令和5年5月号)より電子媒体(PDF)配信に一本化することとなりました。これまで以上にタイムリーな情報発信に努めますので、引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。



発行・編集 ● 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

皇學館高校・中学校 卒業生随想

この春、皇學館高校は371名、皇學館中学校は29名が卒業を迎える予定だ。彼らの胸に去来する思いを語ってもらった。

皇學館中学校

楽しく安心して学べたのは家族や先生方のおかげ

3年A組 井 関 惇 子



私の中学校生活はとても濃く、短いように感じました。新型コロナウイルスが流行り始めた1年生のときは入学式が短縮になったりする中、瞬間に新しい生活が始まり、それに慣れることが大変でした。パソコン越しのクラスメイトとの顔合わせは緊張に気持ちを高ぶらせながら、先生の話聞いたことを覚えています。2年生は1年時と比べて学校の行事は増えたものの、まだ元の学校生活に戻れておらず、体育大会や文化祭などを楽しみながらも、「普通の中学校生活はどんなものだったのだろう」と考え、少し切なかつたです。ですが、熊野の宿泊研修では制限がある中でも、みんなで学び、遊び、とても楽しい思い出を作ることができました。3年生で一番思い出に残っていることはやはり「修学旅行」です。留学生の方たちと英語で会話しながら京都を観光しました。最初はきちんと英語で会話できるか、道に迷わないかと些細なことを心配していましたが、そんなことはなく、留学生の方が優しく、時に導いてくれたりと人の温かさを感じることができました。私たちが3年間、楽しく、安心して学ぶことができたのは、家族や先生方のおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

人として成長でき、たくさんの思い出を作れた

3年A組 北 岡 蓮 弥



僕は皇學館中学校に入ってから人として成長できたと思います。小学校の頃はあいさつをあまりしていませんでした。でも、この3年間であいさつや感謝の大切さなど、たくさんのことを学びました。1年生の時は初めてのことばかりでしたが、一番の思い出は体育大会です。初めてで絶対勝てないだろうと思っていましたが、やっていくうちに意外といい順位をとれ、優勝できると思えました。でも最後のリレーで3年生の意地を見せられ、結局負けてしまいました。やっぱり先輩たちはすごいと思えました。2年生の思い出は宿泊研修に行ったことです。1年生の時はコロナのために宿泊研修に行けなかったもので、とても楽しみにしていました。宿泊研修ではアマゴのつかみ取りやみかん狩りなど、様々な体験をしました。特に間伐体験はあまり体験したことがなかったのでいい経験になったし、とても思い出に残っています。3年生の思い出は修学旅行です。京都のいろいろなところをまわり、京都の歴史と文化に触れられてとても楽しかったです。この3年間でたくさんの思い出ができました。

贈る言葉 無いものを嘆くより、あるものを大事に

中学校3学年主任 小林 誠 治

もうすぐ卒業ですね。おめでとうございます! 3年間を振り返ってみると色々な思い出がよみがえってきますね!

みんなを迎えた入学式の数日後には自宅学習措置となり、画面越しでしか会えない日々、「早くみんなに会いたいな～」ともしどかしく感じたことを今でも覚えています。学校再開後も何かと制限の多い中での学校生活。これまで当たり前と思っていたことが当たり前ではなくなり、逆にこれまで当然のようにあったことのありがたさを改めて感じる日々でした。初めて校外学習に出かけられたのは、2年生の7月に実施した「神宮研究」。外で活動できる喜びで嬉しそうにしていたみんなの顔は忘れられませんね!

体育大会や文化祭、宿泊研修や修学旅行と、どれも素敵な思い出ばかりですが、学校の中で過ごす時間が長かった分、それだけ濃い時間を共に過ごせました。みんなと他愛のない話で盛り上がりたり、くだらない話でおしゃべりしたりして笑った毎日が、何よりも楽しく一番幸せな時間だったように思います。無いものを嘆くよりも、あるものを大事にしながら自ら楽しさや喜びを創り出していき、そんな気概を持ちながらこの先の高校生活も楽しく充実した毎日してもらいたいと思います。またみんなでおしゃべりしましょうね! これからも君たちのことを応援しています!

皇學館高校

工夫の大切さを知り、新しい経験ができた幸運の年

3年6組 北 村 美 優



私の高校生活は変化の年だった。高校1年生のとき、新型コロナウイルスの影響で学校に全く行くことができず、今までほとんど同じクラスメイトと生活してきた私にとって新しい環境はとても不安だった。学校に行くことができたのは6月からで、最初は皆も不安を感じているようだったが、近くの席の子たちが話しかけてくれ、すぐに友達もできた。数週間後には不安も無くなっていた。高校生活はコロナ禍でなければイベントもたくさんあるはずだったが、私たちの代は制限されることが多かった。けれども開催すら危ぶまれる状況でなんとかイベントを行うことができたのは嬉しかった。そして何事も工夫することの大切さを知った。またオンライン授業が導入されるなどコロナ禍を通して新しい体系が多く取り入れられ、新鮮な体験をすることができた。不幸な年だと言われることもあるが、むしろ新しい経験ができたため幸運でもあるのではないかと考えています。

周りの支えによって今の私たちがいる

3年7組 小 林 聖 (前校友会総務副委員長)



高校生活3年間を振り返ってみるとたくさんの思い出と学びがありました。

1年生の頃は友達ができるのか、勉強と部活動の両立はできるのかと不安を抱える中、新型コロナウイルスの影響で学校での授業開始が遅れました。しかし、縮小された学校行事の中で友達同士、そしてクラスを越えた人たちと仲良くなることができました。入学した時の不安は少しずつなくなり、友達と協力することの大切さを知りました。

2年生では校友会に入りました。校友会では、クラスマッチや皇高祭、体育大会など学校行事ごとの運営やボランティア活動などを行いました。1年次に引き続き縮小された学校行事の中で、企画運営を行うことは難しく、たくさんのボランティアの人たちや先生方に変えてお世話になりました。1年生ではわからなかった企画を作ることの難しさ、企画を成功させたときの喜びを知ることができ、人間的にも成長できたように思います。

3年生では、いっこうに取まらないコロナ禍の中で、先生方が練りに練って計画を立ててくださった修学旅行に行き、たくさんの思い出を作ることができました。また、部活動では最後までやり切ることの大切さや受験で合格を勝ち取るための忍耐力を学びました。

このように3年間を振り返ってみると、周りの人の支えがあって今の私たちがいることに気づきました。これからも感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。この学校での思い出は人生の宝物です。

いかに苦難に立ち向かうかが本当の賢さ

贈る言葉

高校第3学年主任 伊 藤 朝 子

令和2年4月、コロナ禍での入学式。あれから3年、皆さんの皇學館高校での生活はいかがだったでしょうか? 入学後も感染拡大の影響を受け、自宅待機によるオンライン授業や学校行事の縮小や中止、クラブ活動の自粛など学校生活に大きな影響を及ぼしました。友人たちとのコミュニケーションも充分に取れない日々もあり、皆さんにとっては思い描いた通りの高校生活ではなかったかもしれません。しかしこのような状況の中でも「コロナ禍のせいで…できなかった」と環境のせいにするのではなく、「コロナ禍だったけど…できた」という声をたくさん聞くことができました。このまさに国難ともいべき状況の中、皆さんが各自行動を自粛しながらピンチをチャンスに変え、前向きに行動する姿にとっても感動しました。人生にはたびたび苦難が訪れます。そのような時、嘆き立ち止まるのではなく、「どうすれば乗り越えられるのか?」という知恵を絞れるかが本当の賢さであり、人の真価だと思います。皆さんは“with Corona”の環境のもと、状況に柔軟に対応しながら有意義に高校生活を過ごし、困難を乗り越えてきました。さすがコロナ時代の卒業生と言われるよう“たくましく”歩んで行ってください。皆さんの活躍を心からお祈りしています。

学生・保護者の皆さま ご加入をお忘れではないですか?

学研災付帯 学生生活総合保険

中途加入のご案内

自転車運転中の高額賠償事故に、ご自身の病気やケガに、在学中補償します。

中途加入保険料のご確認、お申込みはこちらから



パンフレットのご請求・お問い合わせは
皇學館サービス株式会社
TEL 0596-22-8561

アクティブ スチューデント

Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

留学生4名が日本語スピーチ大会に出場 楊清華さんが審査員賞を受賞

シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢で令和4年12月3日、「いせ国際交流日本語スピーチ大会」が開催され、コミュニケーション学科3年の留学生4名が参加した。テーマは「日本に住んで感じる事、考えている事」。

「ご縁に恵まれた私」との題目で発表した杜曉涵さんはアルバイト先の方々をはじめ友人や大学の先生が日本語にまだ慣れない自分をサポートしてくれたことや、先輩留学生たちが結んだ友好のご縁に感謝していると語り、将来は地域と国際交流に貢献できるよう、このご縁を続けていきたいと語った。

李萍さんは「異文化生活での驚き」と題し、日本人の礼儀正しさや真面目さを実感したこと、現金決済のおかげで節約家になった自身の変化を発表し、いろいろな驚きを体験して異文化への理解を深めていきたいと締めくくった。

楊清華さんは「日本人のプライバシーと孤独感」をテーマに、挨拶に天気の話を持ち出す習慣を例に日本人が他人のプライバシーに入り込まないよう距離をとっていると感じる一方で、プライバシーを守りすぎて孤独を感じないかなど、中国との違いについて話した。

「桜吹雪」という言葉を知った時、その美しい表現に感動した」と語ったのは叶田静さん。叶さんは「日本人と自然」の中で、日本には四季があり、台風や地震が多いことから自然を畏れ、大切にす気持ちが大きく、独特の繊



左から叶さん、李さん、杜さん、楊さん。来日から半年が過ぎ、日本での生活にも慣れてきたと話す

細な感性が磨かれたのではないかと述べた。

審査の結果、楊さんが審査員賞を受賞。楊さんは「賞を取れてすごく嬉しい。たくさんの人に聞いてもらえてよかった」と笑顔で話した。指導した濱畑静香教育開発センター准教授は「スピーチの原稿作成や発音練習など、よく準備をして大会に臨んだ4人だった。聴衆の方々に4人の思いが十分伝わったのでは。この貴重な経験を生かし、今後さらに日本語力を向上させてもらいたい」と期待を込めて語った。

中村うた(国史1)さんが 全国大学ビブリオバトル2022で準決勝進出

本学国史学科1年の中村うたさんが令和4年12月25日に開催された「全国大学ビブリオバトル2022」に参加した。中村さんは桜庭一樹著『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』を紹介。惜しくも準決勝にて敗退してしまったが、「リラックスし、堂々と振る舞えるように回数をこなしていきたい」と既に次を見据えている。



ビブリオバトルの魅力語る中村さん

中村さんは大学でビブリオバトルの事を知り、緊張しやすい性格の克服を考えサークル(ビブプロフィリア)に参加した。メンバーは16人ほどで、週に1、2回の活動を行っている。終始なごやかな雰囲気、気楽に参加できるとのこと。

ビブリオバトルは、どんな本でも紹介できる。小説に限らず好きな漫画、思わず感心した評論、自作の小説であっても問題ない。また、発表するだけではなく、発表を聞くこともビブリオバトルの醍醐味であるとのこと。

「いろいろな本を知ることができるのがビブリオバトルの魅力。本が好きな人は、ぜひサークルを見に来てほしい」と中村さんは語った。

令和4年11月に発足したCLL活動「学生広報隊」が 中村さんへの取材・撮影・原稿作成を行いました!



皇學館大学のPRを目的とした学生による広報活動です。令和5年4月からの本格稼働に先立ち、令和4年12月にはCLL活動や学生の取材などを行い、HPのキャンパスダイアリーに記事を掲載しました(下記よりご覧いただけます)。広報の体験や仕事への理解は、将来各自治体や企業などあらゆる分野で生かせる力です。学生目線で本学の新たな魅力を発信していきます。ご期待ください。



学生広報隊メンバー

藤本望乃華(国文2) 上村友希(国文2) 北井まゆ(国文2) 近藤隼太(国文2) 前川貴哉(国文2)

皇學館中学校 未来理工部 山下輝之さんが発表賞受賞 第6回U-16プログラミングコンテスト三重大会

令和4年12月10日に鳥羽商船高等専門学校にて開催された第6回「U-16プログラミングコンテスト」三重大会に皇學館中学校未来理工部に所属する山下輝之さん、井坂翔基さん、水井奏樂さんの3名が出場。山下さんが発表賞、井坂さん、水井さんが敢闘賞を受賞した。



盲導鈴(誘導チャイム)の説明を入れるなど、細かな部分までしっかり作ったと話す山下さん

本紙92号で詳報した通り、本学園はスケールメリットを生かし中高大連携を推し進めている。本校の部活魅力化計画の一環として同部の活動を本学教育学部の大杉成喜教授の研究室がサポートしており、大会に向けて3名は何度も大杉教授のゼミ室に足を運び、機材の貸与や助言を受けた。

放課後も学校に残るなど、9月から約3カ月間頑張ってきた生徒たち。山下さんは「発表力に重点を置いて臨んだのでそれが報われてうれしい」と話し、「他の出場者の作品を見たことが一番の勉強になった。次回は最優秀賞を取りたい」と意気込んだ。井坂さんは「緊張して口が回らなかった。次はゲームを作りたい」と振り返り、水井さんは「先生や学生の方から改良について別の視点での意見をいただき、とてもありがたかった。もっと極めたいと思った。まずは他の作品を超えるところから」と闘志を燃やした。

初出場ということもあり他の児童・生徒と比べると完成度に関してはまだまだ差があると実感させられた大会ではあったが、それぞれがチャレンジ課題を見つけ、有意義な機会となったようだ。



プレゼン後の集合写真(左から2番目より順に山下さん、井坂さん、水井さん)

テーマ	
山下輝之(2年A組)	点字学習
井坂翔基(2年A組)	作曲家になってみよう!
水井奏樂(2年A組)	好きなことを集めたアルバム